

# 教育課程編成委員会

## 令和4年度 第2回委員会 議事録

### 1. 日時および場所

日時：2023年2月18日（土）15：00～17：00

場所：修成建設専門学校 129 教室

### 2. 出席者

学外委員

倉方俊輔、西濱浩次、鍵山昌信、田中義久、辻裕樹、井上久美、小池祐也、  
作本博昭、佐藤榮一、小松原学、中村裕輔、坂入喜代枝、市岡武、壺山和憲、  
小島章、富山毅、槇村吉高

学内委員

山下裕貴、堤下隆司、見邨佳朗、増田和浩、玉井香里、鍵谷啓太、釜友知與子、  
山本順也、野瀬孝男、上杉敬史

以上 27 名

### 3. 配布資料

資料 1-1：令和4年度第2回委員会 議事次第

資料 1-2：委員一覧

資料 1-3：卒業展 2023 ご案内

資料 1-4：建設業界オンライン合同企業説明会 2023

資料 1-5：RECRUIT INFORMATION 2023

資料 1-6：その他各種案内

### 4. 議事次第

#### （1）開会挨拶

堤下校長から開会挨拶に続き、教育課程編成委員会の概要説明・卒業展作品審査の謝辞があった。

山下理事長から学園の現状報告があった。

#### （2）話題提供

##### 1) 令和4年度終了報告

堤下委員より、各学科修了報告を統括して行われた。

##### 2) 修成教育研究所の成果報告

見邨委員より、令和4年度の成果報告が行われた。

### (3) 議事内容説明

#### 学科別討議

##### ◆建築系グループ

倉方俊輔、西濱浩次、鍵山昌信、田中義久、辻裕樹、井上久美、小池祐也、  
作本博昭、佐藤榮一、市岡武  
山下裕貴、増田和浩、玉井香里、鍵谷啓太、釜友知與子、山本順也

##### ・学科説明(各学科長、副科長)

##### ・体系化について(鍵山委員)

今年は教員を少し離れたが、私の設計事務所に昨年の卒業生 1 名が入社し、修成で勉強しその後を目の当たりにできた。体系化は、システムやそのフレームである。

自分が今何を学んでいるのか、あるいはその学んでいるものに対してどういう準備が必要か、それが就職先でどう役に立つか 2 年間で見つけきれないまま卒業を迎えている。

入社した卒業生にフレームとか体系化の話をしている。設計に取り組むときに、例えば学生時代の時間がある時にどれだけ情報収集したのか、建築の知識や建築家作品を現地に視察するなどの情報がほとんどといっていいほど皆無である。2 年間何をしていたのか。専門学校期間が短いので集中して何を学ぶべきかを早い段階で見つけ、進路を確定することが大事である。

そして社会との繋がりを持つことも大切である。就職して初めてつながるのではなくインターンシップなどの体験が必要である。

##### ・建築教育について(田中委員)

修成建設専門学校には 30 年前から関わらせて頂き、非常勤講師も 10 年ほどさせて頂いた。先日も大阪府建築士会や連合会の会長たちと建築教育の話をしている中で、修成は良く頑張っているという話題が出た。常に学生を目線で行動されて、今回説明された「スタディマップ」も学生にとっては「今自分はどの位置に居て、次に何をすべきか」という事が分かり易いので非常に良い提案と評価したい。また、保護者にとっても修成の考え、教育のコンセプトが見えてくるので良いと思う。学生にとっては教育をダイナミックに捉えることが出来て、このような流れで学びが進んでいることが、仮に今はわからなくても将来に分かってくれるのではないかと思われる。

##### ・リカレントについて(倉方委員)

リカレント教育、リスクリング教育は専門学校にとって良いこととそうでないことがある。資格取得などはいいいことであるが、専門性が高い場合は大学のほうが有利なのではないか。教育は体系化可能な場合と不可能な場合がある。修成は資格、就職などについては

体系化できているが、学生自身の中での体系化ができていないことがある。卒業設計などにかかわっている学生はよいが、かかわっていない学生の体系化など、今の教育と大学の教育をまとめたものとするればいいと思う。

・働き方について(市岡委員)

昨年6月から社外取締役役に就任した福本設計に、本年度修成から2名が入社され、元からいた者と併せて4名が在籍されている。村本建設には8名が在籍され活躍して頂いている。働き方改革について、一般に週休2日制が定着してきた現在でも、一部の建設現場では土日にも働く労働者が存在するが、そのような現状が野放しで良いのかという問題がある。土日の現場事務所は閉所するという事を業界全体で一致団結してやるのがゼネコン業界の責務と考えている。その場合、日給月給の人達は収入が減少して困るという問題が考えられるが、それを解決するには、発注単価を上げる、法定福利費をコストオンして発注する等が必要となる。その為にはコストのたたき合い等はやめて、適正なコストを維持していく必要がある。売上至上主義ではなくて安全に高品質なものを作ることで、人があつまり、文化が出来る。建築をつくることで歴史ができる。若い人たちに責任感とプライドを持たせてやりたい。教育機関とは「学びを論ずこと」が使命である。公的な資格は自信をもって社会に出るために有用であるが、資格を取らせるだけではなく、自信とプライド、文化と思想、マインドを持たせることが重要である。

また、企業側では、「使えない」と非難するだけでなく、採用したからには育てていくという姿勢が必要である。学校は学生を論し、企業は人を育てる。そのような観点から見たときに、「修成教育研究所」や「修友会」は素晴らしい取り組みであると考えます。

・教育機関について(作本委員)

建設業界において大学と専門学校の学歴差はないと思います。大学の修学期間は(一般に工学部は大学院まで進学として)6年以上。専門学校は2年でありその差はある。その差は「人と人のつながり」(先輩、後輩)で十分補完できる。

修成には歴史があるのが強みである。入学時には気がついていない学生も多いが、卒業生には優秀な人が多い。修成に入学したことはよい選択だったとやがてわかって来る。そのラインを活かすことが大事である。

・コロナ禍(社会情勢)での教育について(西濱委員)

対面の機会が学生にとって少ない。知識を身につければ良いだけではない。これからは「どう調べるか」がわかっている人間、柔軟性のある人間が重宝される。

授業以外の時間、他校連携、ワークショップ、ゼミなどによって柔軟な力、企画力が身につくのではないかと。

また、人間性もあるだろう。まずは技術よりも生きがい、やりがい、楽しさを実感として

もてることが大切なのではないか。

今後「リノベーション」が増えてくる。建築はすでに余っている。建築の知識を利用して「どうすれば残せるのか、新しくつくらなくてもいいのか」を考えることが必要なのではないか。

- ・その他(委員での思い等)

田中委員：印象に残る学生の話として、学生の際は正論を語るばかりで学業が今一つだった者と仕事で再会した際、社会人になって一定の成長が感じられた。学生の際は物足りなく思われても、もう少し学生を信用してやってもいいのかなと考えた。卒業生が仕事や人生に迷った時に修成は受け入れてくれるという印象だけでも与えてほしいと思う。

坂入委員：建設会社の人事を担当し学生を雇う側の立場で、学生を評価している部分がある。その学生がどういう風な授業を受けて、どう学んできたかを見ることはなかったもので、今回先生方が色々考え工夫して授業しているか理解できた。大学と専門学校の違いは早く就職したいという思いが強いことだと思われる。夢を実現させるため、早い段階で方向性を示してあげてほしい。

中村委員：教育・働き方の難しさ、内装業界の状況や就職の現状と過去の人材・思い入れ等の差等の説明、学校での取組みを評価していただく。

小池委員：積算という特殊な業務を行っているが、建築にはかかせないものである。人には向き不向きもあるが積算で独立する人もいるというお話を最後に頂きました。

井上委員：今後は技術を伝える、教えることも大切だが、設計の楽しさ、技術の楽しさを伝えてほしい。

- ◆土木・造園グループ

小松原学、壺山和憲、小島章、富山毅、槇村吉高  
堤下隆司、見邨佳朗、野瀬孝男、上杉敬史

- ・ RECRUIT information を用いて、スタディマップの説明を行なった。
- ・ 時系列に普段の授業と資格試験との関係を説明した。

- ・ 富士研修センターについて

富士教育訓練センターから戻ってくると、規則を守る意識などが高まるなどの大きなメリットがあるので、次年度はぜひ復活させたい。

年間約 8000 社程度が利用。

普段接しない教員からの教授は新鮮である。

自分たちの将来像が見えて来る。

コミュニケーション力のアップにセンター側も注力していきたい考えである。

修成の学生と一般企業からの派遣では、基本的にカリキュラムは同じ。

→企業から来る人も新入社員である。

学校と企業の連携をどのようにとっていくかが重要。

企業が求める人材としても、宿泊を伴った実践教育は大切である。

仮設経費の値頃感の実体験が大切であり、それが捉えられる富士研修は重要。

- ・大卒と専門学校卒の入職者の違いについて。

能力的な差はあまり感じない。

会社に入ってから、0 からのスタートである。

土木は公共事業が多い中、コンプライアンス等技術者倫理が重要であるが大学ではあまりそのようなことは教えない。

在学中の教育に技術者倫理を育成することが大切。

18 歳と 20 歳の差は大きい、20 歳と 22 歳の差は大きく感じない。

専門学校生は進路意識が強く感じる。

外国人職人も増えていることから、引張る側の管理者のコミュニケーション力は重要

- ・ガーデンデザイン学科について。

造園技能士 3 級 7/9                      2 級 20/25

施工管理技士 1 年に 1 回の受験（後期）としている 14/17

リーダーシップを取れる学生がクラスにいと、好影響を与える。

2 年生が 1 年生を教える機会があることは他学科では見られない。

緑陰道路のプレゼンテーションを B 科の学生が担って、修成祭の折に発表した。

卒業設計のレベルが非常に高まった。

学生の間に資格を取ることは重要である。

ガーデンデザイン学科の学生が土木関係の資格にチャレンジするのは素晴らしい  
建築家も緑の勉強、造園家も建築を勉強することは大切である。

仕事の中では学歴よりもチームワークを重要視。

グラフィックに長けたプレゼンは社会に出て今後ますます重要

（他学科との連携は重要）

- ・大学生との競いの中で重要であるというこのヒントをいただきたい。

受入側が何を求めているのかを常に模索していく。

外国人留学生の教育。

今後淘汰されていく大学も多い中、教育の質を上げ勝負する。

土木、造園を学べる大学は少ない。

- ・今まで発信していなかった世界に積極的な専門分野の発信が重要  
完成現場に子どもを含めた家族を招待するなど、子どもたちに夢を与える方法を考えていく。また家族にも仕事内容の素晴らしさを伝えていく。  
分野の中で知らない部分が多い。魅力をどのように伝えいか、知る機会をどのように作っていくかが重要。知らないまま進路を進めていくことは恐怖。  
施工のプロセスを一般に広くアピールする。

- ・新入社員教育で気をつけていること。  
怪我をしないこと。  
集団生活の重要性を説くことを目的に、入社後1年は研修期間としている。  
**OJT**。  
高速道路の現場管理に研修のために出してもらう。  
目を見て声を出して挨拶をすること。  
→目配り、気配りは怪我を防ぐためにも重要。

#### (4) 次回開催日時について

日時：未決定

場所：修成建設専門学校

以上（記録・文責：釜友知與子 見邨佳朗）